

戦前期における女子サッカーの輪郭を描くことに成功

～現時点で日本最古の女子によるサッカーの写真を発見～

ポイント

- ・戦前期において北海道から九州に至るまで女子によるサッカーが実施されていたことを確認。
- ・現時点で日本最古と考えられる女子によるサッカーの写真を発見。
- ・戦前期における女子スポーツの多様性を考える契機として期待。

概要

北海道大学大学院教育学研究院の崎田嘉寛准教授，大阪成蹊大学教育学部の寶學淳郎教授，東京女子体育大学体育学部の藤坂由美子准教授，四国学院大学文学部の近藤 剛准教授，北陸学院大学人間総合学部の田邊圭子教授，公益財団法人日本サッカー協会の津内 香氏らの研究グループは，北海道から九州までの公立高等女学校 286 校の学校史 422 冊を調査し，戦前の日本における女子フットボールの実施状況を明らかにしました。その結果，調査校の約 19% (53 校) で，1902～40 年にフットボール（遊戯化したものを含む）を実施していた記事や写真が確認されました。

また，調査では，現時点で日本最古と考えられる女子による「サッカー」の写真も発見されました。写真は、『第一高女 85 年の歩み』（津田露，1986）に掲載されており，大分高女時代の 1916 年にサッカーの試合が行われている様子が収められています。これまで最も古い女子サッカーの写真とされてきたのは、『四国新聞』（2011.12.2）に掲載された，丸亀高女の生徒がサッカーをする写真（1919，1920 撮影）でした。大分高女の写真は，丸亀高女より 3 年早いことになります。

男子に好まれたフットボールは，大正期を中心として，女子中等教育機関でも全国的に熱心に取り組まれた競技の一つであったことが明らかになりました。本研究を契機として，日本における女子フットボール・女子スポーツに関する多様な研究が展開されていくことが期待されます。

なお，本研究成果は、『体育学研究』（第 66 巻）に掲載予定です（2021 年 3 月 11 日，オンライン早期公開）。



大分県大分高女のフットボール（大分県立大分上野丘高等学校校友会蔵）

【背景】

日本におけるサッカーに関する歴史研究では、明治・大正期を中心として、いわゆるアソシエーションフットボールの日本への移入とその形成と展開、そして普及と定着について知見が蓄積されてきました。しかし、それらは男子サッカーに関する研究であり、女子を対象としたサッカーに関する歴史研究は行われてきませんでした。

戦前期の女子サッカーについては、2011年12月2日付の『四国新聞』に、丸亀高女でサッカーが行われていた様子が写真（1919年、1920年撮影）に収められた絵葉書が掲載され、最古の女子サッカーの写真として話題を呼んだように、新聞記事や絵葉書から実施の形跡が断片的に見られる程度でした（図2）。当時の学校体育制度では、女子の教材としてアソシエーションフットボールは採用されておらず、対抗試合や全国大会の存在も確認できる限り存在しなかったため、体系的な歴史研究を実施する必要がありました。

2021年、日本サッカー協会は創設100年を迎えます。これに合わせて本研究は、公益財団法人日本サッカー協会からの受託研究「戦前日本の女子サッカーに関する研究」（2018～2019年度）の一部として行われました。

【研究手法】

サッカーをはじめとする近代スポーツの日本への移入と展開には、教育機関が大きな役割を果たしたことが知られています。そこで本研究では、第一に女子教員の養成を担った女子高等教育機関における、フットボールの移入と展開について明らかにするため、指導者・指導書・課外活動の有無に焦点を当てて文献調査を行いました。

そして第二に、高等教育機関で養成された女子教員が赴任した全国の女子中等教育機関における、フットボールの普及について明らかにするため、全国286の高等女学校の学校史422冊を調査しました。また、フットボールが実施されていた学校については、実施時期・実施機会（教育課程、部活動、自由時間、運動会など）を確認し、さらに指導者・服装・用具・ルールを把握することによって、当時の女子フットボールの具体的な様相の解明を試みました。

【研究成果】

調査の結果、調査対象校の約19%にあたる53校で、フットボールに関係する記事や写真が確認されました。施時期は1902年から1940年まで確認されましたが、手で投げる、高さや距離を競うなど、現在のサッカー（アソシエーションフットボール）とは異なる遊戯化されたものも含まれていました。

また、調査を進めるなかで、現時点で日本最古と考えられる女子による「サッカー」の写真も発見されました（p.1 図）。写真が発見されたのは、1986年に発行された現在の大大分県立大分上野丘高等学校の『百年史』で、大大分県立高等女学校（以下、大大分高女）時代の1916年にフットボールの試合が行われている様子が収められており、これまで最古と考えられてきた丸亀高女の写真よりも3年古いこととなります。なお、大大分高女のフットボールは、ゴールキーパーにあたる役割の選手の存在、紐で代用したクロスバーの設置などから、男子のアソシエーションフットボールを意識した組織的なものであったと考えられます。参考までに、大大分県立図書館が所蔵する校友会雑誌にもフットボールをする様子が収められています（図1）。

以上のように、男子に好まれたフットボールは、大正期を中心として、女子中等教育機関でも全国的に熱心に取り組みされた競技の一つであったことが明らかになりました。

【今後への期待】

今後の課題としては、本研究で対象とし得なかった女子高等教育機関や、私立高女などの中等教育機関、さらには初等教育機関における女子フットボールにまで調査対象を拡充することがあげられます。また、本研究では学校史を中心史料として扱いましたが、各校の校友会誌等を用いることで、戦前期における女子フットボールの仔細が、さらに明らかになっていくと考えられます。

最後に、本研究は、日本における女子フットボールをはじめ歴史的に解明しようとした、歴史的基礎研究に位置づけられます。本研究を契機として、日本における女子フットボール・女子スポーツに関する多様な研究が展開されていくことが期待されます。

【謝辞】

本研究は、公益財団法人日本サッカー協会からの受託研究「戦前日本の女子サッカーに関する研究」(2018～2019年度)の成果の一部です。

論文情報

論文名 戦前日本における女子フットボールの様相に関する歴史的基礎研究

著者名 崎田嘉寛¹、寶學淳郎²、藤坂由美子³、近藤 剛⁴、田邊圭子⁵、津内 香⁶ (¹北海道大学大学院教育学研究院, ²大阪成蹊大学教育学部, ³東京女子体育大学体育学部, ⁴四国学院大学文学部, ⁵北陸学院大学人間総合学部, ⁶公益財団法人日本サッカー協会)

雑誌名 体育学研究 (体育・スポーツ・健康科学の専門誌)

D O I 10.5432/jjpehss.20145

公表日 2021年3月11日(木)(オンライン早期公開)

お問い合わせ先

北海道大学大学院教育学研究院 准教授 崎田嘉寛 (さきたよしひろ)

T E L 011-706-5435 メール sakita@edu.hokudai.ac.jp

大阪成蹊大学教育学部 教授 寶學淳郎 (ほうがくあつろう)

T E L 06-6829-2515 メール hougak@osaka-sekei.ac.jp

配信元

北海道大学総務企画部広報課 (〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目)

T E L 011-706-2610 F A X 011-706-2092 メール jp-press@general.hokudai.ac.jp

大阪成蹊大学広報企画部 (〒533-0007 大阪市東淀川区相川3丁目10番62号)

T E L 06-6829-2606 F A X 06-6829-2747 メール kouhou@osaka-seikei.ac.jp

東京女子体育大学広報課 (〒186-8668 東京都国立市富士見台4-30-1)

T E L 042-572-4131 F A X 042-576-2397

四国学院大学リエゾン・センター (〒765-8505 香川県善通寺市文京町3-2-1)

T E L 0877-62-2208 F A X 0877-62-3969 メール liaison@sg-u.ac.jp

北陸学院大学総合政策課経営企画係 (〒920-1396 石川県金沢市三小牛町イ11番地)

T E L 076-280-3858 F A X 076-280-3859 メール project@hokurikugakuin.ac.jp

【参考図】



図 1.大分県大分高女のフットボール（大分県立図書館所蔵）：1918 年



図 2.香川県丸亀高女運動会のフットボール（丸亀高校記念館所蔵）